



外国文献紹介

経大腰筋アプローチによる腰椎変性側彎症の術前における拡散テンソル・トラクトグラフィの有用性について

Eguchi Y et al : Diffusion tensor tractography of the lumbar nerves before a direct lateral transpsoas approach to treat degenerative lumbar scoliosis. J Neurosurg Spine 30 (4) : 461-469, 2019

筆者らは、腰椎変性側彎症（DLS）で手術を実施した患者 12 例について、術前に MRI 装置を用いて、T2 強調像や拡散テンソル画像（DTI）、T2 強調像と DTI の合成画像などを作成し、コントロール群 10 例と比較した。その際大腰筋の形態学的特徴や走行異常、神経の走行などについて検討した。その結果、大腰筋の走行異常はコントロール群では 30% の症例にしかみられなかったのに対して、DLS 群では 100% の症例で認められた。また、側彎の凸側では腰神経は後方へ偏位しているため、側方経路腰椎椎体固定術（LIF）を行う場合には、側彎の凸側からのアプローチが凹側からのアプローチよりも安全性が高いと思われる。そして、DTI を用いた腰神経の走行評価は DLS 患者の LIF の術式を検討するうえで有用と思われると述べている。

瀬戸一彦